

2021年度版

森ノ宮医療大学 地域・社会連携事業報告



想いのすべてを、医療の力に。



森ノ宮医療大学

学長 挨拶



学長／医師
青木 元邦 Aoki Motokuni

森ノ宮医療大学は、多岐にわたる医療専門職を養成する医療系総合大学です。大阪市住之江区咲洲地区に2007年4月に開学し、今年で15周年を迎えました。3学部7学科と大学院、助産学専攻科を擁し、約2,000名の学生が医療職や研究職、教育職を目指して学んでいます。

新型コロナウイルスの流行により様々な活動が制限されている中においても、本学は試行錯誤しながら、医療人育成や社会貢献の責務を果たすことに注力し日々取り組んで参りました。特に地域・社会貢献は大学の社会的使命と強く認識しており、地域の皆様や企業、自治体等と連携した多彩な社会活動を展開していきたいと考えております。地域に根付く医療系総合大学として、健康・医療に関わる教育研究活動と、地域・社会に向けた情報発信を積極的に続けて参ります。

2021年度 地域・社会連携事業一覧

◆地域連携事業

実施日	学部・学科	内容
毎月1回	看護学科	介護予防教室「ほほえみクラブ」
毎月1回	看・理・作	高齢者向け健康支援「もりもり まちの保健室」
毎月1回	理学療法学科	介護予防体操「もりもり元気体操」
6月17日～7月16日	全学	住之江区新型コロナウイルスワクチン接種会場への教職員派遣
6月24日／10月31日	全学	市民公開講座
12月7日／12月13日	看護学科	認知症サポーター養成講座、フォローアップ講座
11月6日	看護学科	防災学習
11月13日	臨床工学科	咲洲こどもEXPO2021への出展

◆社会連携事業

実施日	学部・学科	内容
6月28日～10月1日	全学	新型コロナウイルスワクチン職域接種
7月11日	鍼灸学科	サッカーフェスティバル U-15交流戦
8月1日／11月28日	臨床工学科	ひらめき☆ときめきサイエンス
8月30日	全学	イカリソース(株)の「超減塩ソース」の監修
9月～1月	臨床工学科	ピロリ菌撲滅プロジェクト
9月22日	全学	サキシマベイエリア クリーンアップ大作戦!
10月～	看護学科	子育て支援人材育成事業への講師派遣
12月10日	作業療法学科	認知症予防講座

◆ 地域とつながる – 地域連携事業 –

ほほえみクラブ 看護学科教員、有志学生



毎月第3土曜日に、地域の高齢者の方を対象に、介護予防教室「ほほえみクラブ」を開催しています。「認知症予防講座」や「ツボ講座」「転倒予防講座」など、本学教員による様々なサポートを行っています。参加者の皆様からは「認知症や介護の予防を期待している」や「学生さんやお友達に会えるのが楽しみにしている」といったお声をいただいています。

もりもり まちの保健室 看護・作業療法・理学療法学科教員、有志学生



毎月第3土曜日に、南港ポートタウン太陽のまち地域において、地域の高齢者支援を目的とした「もりもり まちの保健室」の活動を行っています。本学の教員と学生が、高齢者の方々の血圧・握力等の測定を行うほか、健康に関する生活上の困りごと等の相談を受け付けています。この活動は、将来医療職を目指す学生にとって、高齢者の方とのコミュニケーションを円滑にとるための訓練としても大変有意義なものとなっています。利用者からは「毎月測定することで、数値を改善する励みになる」「学生と話せて楽しい」などのお声をいただいています。

住之江区ワクチン接種への教員職派遣 医師、看護師免許を持つ有志教職員



6月17日から1ヶ月にわたって、本学が所在する住之江区の集団接種会場での新型コロナウイルスワクチン接種事業に協力しました。これは、本学と包括連携協定を結ぶ大阪市住之江区の依頼に対して協力したもので、医師免許を持つ教授3名と看護師免許を持つ教職員5名がチームを組んで参加しました。また、本学医師がワクチン接種における注意点をわかりやすく解説した動画を作成し、接種後の経過観察の時間にご覧いただけるよう会場で放映しました。「地域とともに発展する大学」として健康な街づくりに積極的に取り組んでいくことで、社会への貢献を図っていきたいと思います。

咲洲子どもEXPO 2021への出展



臨床工学科
教授 原良昭



教授 稲田 慎

11月13日、第9回「咲洲子どもEXPO 2021」がATC（アジア太平洋トレードセンター）で開催されました。本学からは「森ノ宮医療大学のお楽しみ実験SHOW!!」ブースを出展しました。“静電気を利用した実験を介して、科学的探究心の重要性を伝える”をコンセプトに、今回は「バンデグラフ体験」「機械式電気くらげ体験」「電気くらげ製作」のコーナーを設置して学生が実演を行いました。コロナ禍でこういったイベントが少なくなっていたため、多くの子ども達がブースを訪れ、静電気の不思議を体験し、楽しんでいる姿が見られました。



市民公開講座

連携協定締結先病院の医師、全学科の教員



6月24日に2021年度第1回市民公開講座「睡眠障害」を実施しました。開催直前まで緊急事態宣言が発出されていましたが、65名の参加者がありました。基調講演では大阪急性期・総合医療センターの精神科医である北内様にお話しいただきました。睡眠障害の中でも特に不眠の治療法についてお伺いしました。年齢を問わず睡眠に対して何らかの不調を抱えている方も多く、熱心にメモを取っている様子が見受けられました。



10月31日に開催した第2回「がん診療の最前線3」は、乳がんがテーマでした。基調講演では大阪国際がんセンターの乳腺・内分泌外科医である玉木様に、手術や薬物療法だけではなく最新の乳がんの治療法についてお話しいただきました。参加者の9割が女性で、今後の生活において参考にしていただける内容になったことと思います。

認知症サポーター養成講座、フォローアップ講座



看護学科
教授 福島 信也

12月7日、13日に大阪市立南港北中学校にて「認知症サポーター」養成講座として授業を行いました。2年生で認知症サポーター養成講座を学習し、さらに3年生でフォローアップ学習をすることにより、認知症の方をサポートするだけでなく、人とのつながり方等についてもクラスで話し合うことができました。この2年間での参加型プログラムは大阪市としては初で、全国でも稀な取り組みです。中学生が認知症について考える良いきっかけとなりました。



防災学習

看護学科 教授 福島 信也



11月6日に、大阪市立南港北中学校の土曜授業として、防災学習が行われました。この活動は、中学生も地域社会の担い手として災害時に協力できるよう、防災に関わる意識を持つことを目的としています。被災地である岩手県宮古市田老地区の状況等を紹介しながら、災害が起きた時の命を守る3原則を説明しました。実際と同じ状況を想定し、どのように対応したらいいのかを考えることで、中学生にとって地域の防災について考える良い機会となりました。

もりもり元気体操



理学療法学科
学科長／教授
三木屋 良輔

住之江区社会福祉協議会からの依頼で毎月第3火曜日に、住之江区内で介護予防を目的として「もりもり元気体操」を行っています。この体操は本学が開学10周年を記念して創ったもので、座ったままでも実践でき、身体機能の改善、認知症予防に効果的な動きが盛り込まれています。現在オンラインでも実施しています。



◆ 社会とつながる – 社会連携事業 –

新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施

全学教職員



6月28日～10月1日の期間に、本学のコスモホールにて新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施しました。ワクチン接種の運営には、医師や看護師をはじめとする医療資格を有する教員を中心に多くの教職員が協力し、医療系総合大学ならではの連携体制で円滑に実施することができました。対面授業や実習など大学生活の安全性を向上させ、学生の学ぶ機会を確保することを最優先に取り組みました。さらに近隣の企業や大学にも声をかけ、52団体約6900名の方が接種を受けにられました。また、今回この時の様子をドキュメンタリー動画として記録し、YouTubeで公開しています。新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発出後、誰も経験したことのない先行き不透明な状況の中で、医療系総合大学としてどのように立ち向かったのか、職域接種の実現に向けた本学ならではの取り組みに密着した内容です。本学学生・教職員だけではなく、地域の企業・団体等多くの皆様と一緒に協力しながら歩んだ軌跡をぜひご覧ください。



YouTube

サッカーフェスティバルU-15交流戦

鍼灸学科教員、MST所属の学生



7月11日に舞洲運動広場において、サッカーフェスティバル U-15交流戦を行いました。本交流戦は、健全なサッカー少年を育成し、サッカーを通じて友情の輪を広げ選手間の交流を図る目的で開催したものです。交流戦のサポートとして、本学鍼灸学科の学生トレーナー（メディカルスポーツトレーナー研究会：MST）による受傷した選手への対応のほか、お灸体験やコンデショニング講義を行いました。この取り組みは医療とスポーツ分野での活躍をめざす学生にとって貴重な体験の場となりました。

ひらめき☆ときめきサイエンス



臨床工学科
准教授 辻 義弘



8月1日、11月28日に「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を開催しました。このプログラムは大学等の研究機関で行っている科学研究費助成事業（科研費）の研究成果をもとに、小学5・6年生、中学生、高校生を対象に、直に見る、聞く、ふれることで、科学の面白さを感じてもらうプログラムです。

「人工腎臓 ミクロの世界を体験しよう！」をテーマに講義や実験などを企画しました。牛乳を透明にする実験では、腎臓の働きや血液を浄化する方法を学びました。小学校の理科で学習した「ものの溶け方」や「からだのつくりと働き（腎臓のはたらき）」が医療分野で人工腎臓として応用され「人の命を救っている」ことを知り、理科を学ぶことの楽しさを感じてもらえました。プログラムの最後には修了式が行われ、参加者全員に「未来博士号」を授与しました。アンケートの結果も好評で、参加者の笑顔や驚きの表情、好奇心あふれる様子が印象に残るプログラムとなりました。

「超減塩ソース」の監修

名誉学長 荻原 俊男、学長 青木 元邦、看護学科 教授 森 美侑紀



8月30日、本学が監修した「超減塩ソース」がイカリソース株式会社から新発売されました。本学園とイカリソース株式会社は、2020年11月に連携協定を締結しており、今回の「超減塩ソース」の開発は、その連携取り組みの一環として行ったものです。

日本人の3人に1人が高血圧といわれる時代において、日本人の1日の平均食塩摂取量は男性10.9g、女性9.3gと高く、日本高血圧学会の掲げる1日の食塩摂取目標である6g未満をはるかに超えています。より美味しく健康的な商品を目指して、監修にあたった教員だけでなく、その他の教職員にも試食会に参加してもらい、広く多くの方から意見を募りました。また監修の際には、1日に必要な塩分量、ソースに使用する原料、ソースに含まれる成分について、本学の医学博士号を有する教員らが、専門的な見地から具体的なアドバイスを行ってきました。その結果、イカリソース株式会社として史上最高の減塩率を誇るソースが完成しました。新発売された超減塩ソースは高血圧対策として、1日に必要な塩分量を考慮し、かつ減塩コントロールが行いやすく、おいしい味わいのソースとなっています。全国のスーパーにて販売している他、本学の売店や学食にてご購入いただけます。

ピロリ菌撲滅プロジェクト



臨床工学科
准教授 西垣 孝行



「ピロリ菌撲滅プロジェクト」は、“大切な人をピロリ菌から守る”をコンセプトに、予防に関する情報が届きにくい人に検査キットを格安で届けるプロジェクトです。経済的に課題を抱えている人や忙しい人、身体を酷使する人などに対して、誰かを救いたいと思っている仲間団体を介して、自宅で検査できる「胃がんリスク層別化ABC検査キット」を配布し、ピロリ菌を見つけ出します。ピロリ菌が検出された場合、その後に胃カメラ検査を受けると農家から野菜などのプレゼントが届きます。検査にエンターテイメント性を持たせ、結果としてピロリ菌の撲滅を目指します。将来的に、世界中の胃がんによる死亡者数削減に寄与でき、大幅な医療費削減効果があると期待しています。また2025年の大阪・関西万博に来られるアジア人にフォーカスを当て、和食や日本酒など食のエンタメと医療を合わせて、楽しみながら健康になれるという発想で今後も普及・発信していきたいと考えています。

サキシマベイエリアクリーンアップ大作戦！

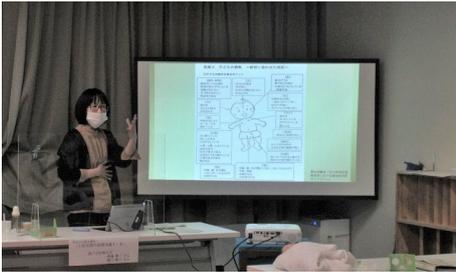
有志教職員、有志学生



9月22日、本学が所在する咲洲地区で清掃活動が実施されました。この活動は、咲洲地区でも特にコスモスクエア地区のまちづくりを推進するコスモスクエア開発協議会の主催で、日本財団と環境省が共同で行う「秋の海ごみゼロウィーク2021」の趣旨に賛同して実施されたものです。ボランティアで参加した教職員や学生は、近隣企業の従業員の方々と一緒に、ごみ袋がいっぱいになるまでごみ拾いを行いました。自分たちが働く、学ぶ場所の環境を整えることで、SDGsにもある「住み続けられるまちづくり」に貢献していきます。

子育て支援人材育成事業への講師派遣

看護学科 教員 齋藤、岡田、徳島、安井、樋口



10月から看護学科の小児・母性領域の教員が、大阪市立男女共同参画センター子育て活動支援館で行われているファミリー・サポート・センター事業の講師を務めています。この事業は厚生労働省が推進する「地域子ども子育て支援事業」の一環で、本講座は児童の預かり援助を希望する方に対して、子どもの健康に関する知識や病児に対する看護技術を教授することを目的としています。この活動は、大阪市内を拠点としており、今後より多くの区においても実施できるよう活動を強化していきたいと思っています。

認知症予防講座



作業療法学科
学科長／教授
松下太

12月10日、大阪市立平野区老人福祉センターにて大阪市平野区在住の在宅高齢者を対象に、「今日からできる認知症予防」講座の講師を務めました。「作業脳トレ」として、運動としりとりを組み合わせたゲームなど、気軽にできるトレーニングを紹介しました。認知症予防には笑いが大切で、この日も楽しい大笑いの1時間を過ごしていただきました。



◆ 企業とつながる - 2021年度の連携協定 -

西日本旅客鉄道株式会社



 西日本旅客鉄道株式会社

6月7日、西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社と「安全・安心なまちづくり」「教育・医療・文化の振興・社会貢献」に寄与すること、「大阪環状線60周年を契機とした街の魅力の情報発信」に関して協力することを目的に、連携協定を締結しました。

また連携取り組みとして、JR利用客に向けた体調不良、急病人に遭遇した際のケーススタディ啓発動画を共同作成しました。医療専門資格を持つ教員が監修・構成に携わり、その他職員や学生も出演しています。



NTTドコモレッドハリケーンズ大阪



 RedHurricanes®

8月23日、NTTドコモレッドハリケーンズ大阪と教育・研究・医療・文化の振興、人材育成、スポーツ振興、社会貢献等の分野において、相互に協力することを目的に連携協定を締結しました。

連携取り組みとして、選手のパフォーマンス評価やケガ予防への支援を行っています。その他、スポーツリハビリやスポーツ鍼灸に興味がある学生に向けて講演を行っていただきました。今後は学術研究へのデータ提供のご協力、各種イベント等を通じた地域貢献、社会貢献を行っていく予定です。





2022年11月に森ノ宮医療大学附属「大阪ペイクリニック（仮称）」が開院予定です。内科・循環器内科・整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科などを設け、MRIや超音波検査など高度な医療機器を配備します。さらに調剤薬局を誘致し、咲洲地区で暮らす・働く人々の健康を守ります。

－ 5つのポイントー

- (1) 経験豊かな総合内科専門医、循環器専門医・プライマリケア認定医、整形外科専門医・がん治療認定医による診療
- (2) 最新式MRI・DEXA型骨密度測定装置・各種超音波検査・動脈硬化検査・迅速採血検査機器などの精密検査機器を用いた高度医療
- (3) 健康診断・各種ワクチン接種・様々なドックメニュー（脳ドック・生活習慣病ドック・認知症ドックなど）による質の高い予防医学の提供
- (4) 再生医療や発熱外来による感染症診療など、大学附属クリニックならではの高度な診療
- (5) 大学に所属する様々な医療専門職と連携した多面的な健康管理



■ はり・きゅうコスモス治療院

鍼灸学科のある森ノ宮医療大学では、鍼灸師の国家資格をもった大学教員や研究員らが治療にあたり、国内外の最先端の研究成果をいかした治療を行います。

開院時間や治療費についてはHPをご覧ください。お電話にてご確認ください。

HP : <https://www.morinomiya.ac.jp/institution/cosmos.html>
TEL : 06-6616-6933

■ さくらカフェ（桜棟2F）



平日（土日祝日、大学閉館期間を除く）
カフェ営業 10:20～16:00

■ メディカフェ（食堂棟）



平日（土日祝日、大学閉館期間を除く）
ランチ営業 11:00～14:45（LO/14:15）